

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2017/12/29	2018/7/31	2018/8/24	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	22,764.94	22,553.72	22,601.77	24,129.34	2018/1/23	14,864.01	2016/6/24
NYダウ	ドル	24,719.22	25,415.19	25,790.35	26,616.71	2018/1/26	15,370.33	2015/8/24
円/ドル	円	112.69	111.86	111.24	123.76	2015/11/18	99.02	2016/6/24

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 下落して始まったものの、貿易摩擦への懸念が和らいだことなどを受けて反発 ~

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+331.39円(+1.49%)、TOPIXが+11.67ポイント(+0.69%)となり、下落して始まったものの、貿易摩擦への懸念が和らいだことなどを受けて反発に転じました。業種別(東証33業種)にみると、石油・石炭製品、その他製品、パルプ・紙など23業種が上昇する一方、非鉄金属、ゴム製品、海運業など10業種が下落しました。

週明けの20日は、円高ドル安の進行などを受けて下落して始まりました。翌21日も、トランプ大統領がFRB(米連邦準備理事会)の利上げスタンスに対して不満を示したことを背景に109円台まで円高ドル安が進んだことなどから、下落して始まりました。しかし午後にかけては、政府系資金による買支えが報じられた中国株市場が大きく上昇して始まったことを受けて反発に転じました。その後週末にかけては、①ロス米商務長官が米国とメキシコの間で行っているNAFTA(北米自由貿易協定)再交渉が合意に近づいていることを示したことなどを受けて貿易摩擦への懸念が和らいだこと、②23日、米国が160億ドル相当の中国からの輸入品に対する追加関税を発動したものの、材料出尽くし感から中国株市場は上昇したことや円安ドル高が進んだことなどから、堅調に推移しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回	
8月28日	Tue	日本	流動性供給入札		
		米国	S&P/ケース・シラー住宅価格指数(前月比・季調済) 消費者信頼感指数	6月 8月	0.20% 127.4
8月30日	Thu	日本	2年利付国債入札		
8月31日	Fri	日本	失業率 鉱工業生産(前月比)	7月 7月	2.4% -1.8%
		米国	シカゴ購買部協会景気指数	8月	65.5
		中国	製造業PMI	8月	51.2

決算発表予定 他 海外 決算発表 : 8/28 中国農業銀行、中国建設銀行 8/29 セールスフォース・ドットコム 8/30 中国工商銀行

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 貿易摩擦への懸念が和らぐ中、日中の政策対応への期待などを背景に  
上昇基調が続く ~

今週の日本株市場は、①米中貿易問題への懸念は残る一方、米国とメキシコの間では27日にもNAFTA再交渉で合意する可能性があること、②先週末のジャクソンホールで行われたパウエルFRB議長の講演において、物価上昇圧力が高まらない中、景気への影響に配慮しながら慎重に利上げを行う姿勢が示されたこと、③中国が株の買支えや人民元のレート引上げなど金融市場の安定化に注力し始めたこと、④9月20日の自民党総裁選を控え、安倍政権は株価下落を回避する姿勢を強めると見ていること、⑤バリュエーション面で割安感があること、⑥テクニカル面で日経平均が200日移動平均を上回ってきたことなどから、上昇基調が続くと予想します。

その他の注目材料として、日本では31日の失業率や鉱工業生産、米国では28日の消費者信頼感指数や31日のシカゴ購買部協会景気指数、中国では31日の製造業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.  
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会